

## (8) 図画工作、美術、芸術（美術、工芸）

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の目標の在り方

#### i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。

#### ii) 課題を踏まえた図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の目標の在り方

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）で育成を目指す資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。
- 芸術系教科・科目における「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。知識が、体を動かす活動なども含むような学習過程を通じて、個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念<sup>144</sup>として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通じて更新されていくことが重要である。（なお、ここで言う概念の習得が一般概念の習得にとどまるものではないことに留意する必要がある。）
- このことを踏まえて、「知識」に関しては以下のことが重要であり、発達の段階に応じで整理していく必要がある。
  - ・〔共通事項〕を学習の支えとして、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること

---

<sup>144</sup> 脚注 44 参照。

- ・芸術に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解すること
- また、芸術系教科・科目における「技能」についても、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが重要である。
- 以上のような「知識・技能」の整理とともに、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」についても三つの柱に沿った整理を行い、小・中・高等学校を通じて図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において育成を目指す資質・能力を別添9 - 1のとおり整理した。
- また、小学校図画工作科の工作に表す活動において育成する資質・能力は、中学校技術・家庭科（技術分野）において育成する材料、加工に関する技術についての基礎的・基本的な知識・技能ともつながるものである。
- これらを踏まえ、学校段階ごとに育成を目指す資質・能力について、別添9 - 2のとおり整理しており、学校段階ごとの教科の目標についても、このような資質・能力の整理に基づき示すことが求められる。
- また、高等学校芸術科は、芸術への永続的な愛好心を育み、感性を高め、豊かな情操を養う教科であり、一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要である。したがって、今後も現行と同様に、音楽、美術、工芸、書道の選択制のもと、人間の精神の働きによって作りだされた有形・無形の成果の総体と言える芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、学校を卒業した後も、生涯にわたり我が国及び諸外国の芸術文化を尊重する態度の育成を重視していくことが大切である。

### iii) 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における「見方・考え方」

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の「見方・考え方」については、以下のとおり整理した。

#### 【小学校図画工作科】

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくり出すこと。

#### 【中学校美術科】

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すこと。

#### 【高等学校芸術科（美術）】

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくりだすこと。

### 【高等学校芸術科（工芸）】

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくりだすこと。

- これらの教科・科目の「見方・考え方」は、現行の学習指導要領において、小学校図画工作科、中学校美術科で示されている表現及び鑑賞に共通して働く資質・能力である〔共通事項〕とも深い関わりがある。今後、その関連について検討していくことが求められる。
- こうした芸術系教科・科目の「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることである。知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科等以上に芸術系教科・科目が担っている学びである。また、個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくこと、自分の感情のメタ認知なども含まれており、そこにも、芸術系教科・科目を学ぶ意義や必要性がある。
- また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではない。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きである。また、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものである。このため、子供たちの創造性を育む上でも、感性を働かせ育む芸術系教科・科目がこのことを担っている。

## ②具体的な改善事項

### i) 教育課程の示し方の改善

#### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において、資質・能力を育成する学習過程の在り方について、別添9 - 3のとおり図示した。
- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、感性や想像力等を働かせて、形や色などの特徴やイメージなどと幅広く関わり、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら学習することができるように、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力を位置付けた。
- こうした学習過程の中で、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力が主体的に学ぶ意欲や感性などと往還して、形や色などの特徴やイメージなどと関わることを重視した。

- 表現の学習において発想や構想することや創造的な技能を働かせること、鑑賞の学習において作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことなどが、それぞれの学習過程の中で、知識を得たり結び付けたり活用したりしながら、相互に関連して働くようにすることにより、資質・能力を効果的に育成することが重要である。

## イ 指導内容の示し方の改善

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、現行の学習指導要領において、育成する資質・能力を明確化しているが、今後、学習内容との関係について三つの柱に沿って整理された資質・能力や学びの過程の考え方を踏まえて、それらの趣旨を実現すべく、次の点から指導内容の示し方を改善する。
  - ・ 現行の学習指導要領で明確にした、資質・能力と学習内容との関係を踏まえて、A表現、B鑑賞のそれぞれ領域の中で育成を目指す「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」について、それらと関連する項目や指導事項、内容の取扱いなどに明示する。また、別添9 - 3に示す学習過程を学習指導要領の構造に反映する。
  - ・ 表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕を、「見方・考え方」との関連を考慮して位置付ける。
  - ・ 主として専門学科において開設される教科としての美術科については、美術に関する専門的な内容を指導する教科であることから、各科目における専門的な学習を通して育成を目指す資質・能力について、三つの柱に沿って整理する。

## ii) 教育内容の改善・充実

- グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、美術や工芸の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。
- 芸術系教科・科目においては、子供たちが、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と自分との関わりを築いていけるようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるといいう実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる。
- 子供たちが置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきている。こうした環境の変化を踏まえて、例えば、我が国のよき音楽文化を伝える教材を扱ったり、実際にものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動を重視したり、伝統的な書式で和紙の便箋や封筒を使用して手紙を書いたり、実感を伴う学習にするために畳や床の間といった伝統的な生活環境を活用したりするなど、学校教育において取り上げなければ出

会うことのない教材や経験することのない活動を、子供たちに提供することも、学校教育の役割の一つである。

- 芸術系教科・科目においては、思考力・判断力・表現力等を高めるため、言語を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法（音や形、色など）を用いた言語活動や、音や形、色などにより表現されたことを捉えて言語化する言語活動を行っている。また、捉えたことを、喩えたり、見立てたり、置き換えたりすることは、表現や鑑賞を深めていく際に重要な活動である。このため、アクティブ・ラーニングの「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」の視点からの学習・指導の改善・充実を図る上でも、現行の学習指導要領において重視されてきた言語活動については、芸術系教科・科目の特質に応じた充実を図ることが求められる。

### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

#### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 従来、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通してよさや価値を実感する活動を重視してきた。今後、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、活動と学びの関係性や、活動を通して何が身に付いたのかという観点から、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。
- 以下、高等学校芸術科（美術Ⅰ、工芸Ⅰ）を例に、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を実現する学習・指導の改善・充実の視点を示す。

#### 【高等学校芸術科（美術Ⅰ）】

- ・ 「主体的な学び」の実現のためには、主題を生成したり構想をしたりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えたり、自己の生成した主題や対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。
- ・ 「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、創造活動を通して、形や色彩などの造形の要素の働きなどを理解し、美術作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるなどの言語活動を一層充実させることが重要である。
- ・ 「深い学び」の実現のためには、中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、芸術としての美術と豊かに関わる学習活動を通して、美術の創造活動を主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに主題を生成したり発想や構想をし

たりし、創造的な技能を働かせてつくりだす表現の能力と、美術作品や文化遺産などを様々な観点から鑑賞して、そのよさや美しさを創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連して働くようにし、教科・科目において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。

### 【高等学校芸術科（工芸Ⅰ）】

- ・ 「主体的な学び」の実現のためには、思いや願いを持ち、自らの発想や構想をしたりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩、素材などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えたり、自己の思いや願い、対象の見方や感じ方を大切にしていって、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。
- ・ 「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせ、創造活動を通して、形や色彩、素材などの造形の要素の働きなどを理解し、工芸作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるなどの言語活動を一層充実させることが重要である。
- ・ 「深い学び」の実現のためには、中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、生活を心豊かにする芸術としての工芸と豊かに関わる学習活動を通して、創造活動を主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに発想や構想をしたりし、創造的な技能を働かせて制作する表現の能力と、工芸作品や伝統工芸などを様々な観点から鑑賞して、そのよさや美しさを創造的に味わうなどの鑑賞の能力を相互に関連して働くようにし、教科・科目において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。

### イ 教材や教育環境の充実

- 小学校図画工作科、中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）においては、学習指導要領に示す育成する資質・能力と学習内容を踏まえ、児童生徒の実態に応じて題材を工夫することが大切である。特に、表現の学習に使用する教材については、個性やよさなどを伸長する観点から、一人一人が、自分のよさを発見し喜びを持って自己実現を果たしていく態度の形成を図るように、児童生徒の実態に応じた多様な視点から設定することが求められる。

また、児童生徒が使用する教材などについては、一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせて、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」を相互に関連させる、「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」の視点からの学習過程の質的改善につながるような示し方の工夫などが求められる。例えば、主たる教材には、作品とともに

児童生徒の活動の様子も示し、どのような資質・能力の育成を目指すのかが教員にもわかるようにすることが大切である。

- こうした学習指導要領の趣旨を実現できるよう、引き続き、教員養成や教員研修による教員の資質・能力の向上、教材や材料、用具、環境等の整備を図ることが求められる。

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校 芸術 (美術) 212	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について実感的に理解を深めること。</li> <li>感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や 感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えること。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の創造活動の喜び</li> <li>芸術としての美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり美術を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美術文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p>など</p>
高等学校 美術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術に関する専門的な知識及び創造的な技能</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的直感力，想像力を豊かに働かせ，個性豊かな発想や構想をしたり，美術作品や文化財などについて批評する能力を高めたりして，地域や社会全般にわたる芸術文化の発展について考え，創造すること。</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の専門的な学習に主体的に取り組む態度</li> <li>美術文化の発展と創造に寄与する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p>など</p>

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
213 高等学校 芸術 (工芸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について美感的に理解を深めること。 など</li> <li>感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，<u>材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと。</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、<u>意図と表現の工夫</u>などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ること。 など</li> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、<u>意図と表現の工夫</u>などについて考え、<u>工芸や工芸の伝統と文化</u>などについて自分の見方や感じ方を深め、<u>価値意識</u>を持って工芸を捉えること。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの<u>価値や心情</u>などを感じ取る感性</li> <li>工芸の創造活動の喜び</li> <li>芸術としての工芸の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり工芸を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>工芸の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する，<u>情感豊かな心としての情操</u> など</li> </ul>

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
214 中学校 美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について美感的に理解を深めること。 など</li> <li>感性や造形感覚を働かせて、<u>材料や用具</u>を生かし、表現方法を工夫して、<u>創造的に表すこと</u>。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、<u>創造的な表現の構想を練ること</u>。 など</li> <li>感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、<u>美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、味わうこと</u>。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の創造活動の喜び</li> <li>美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>美術を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩など</u>によるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美術文化の継承と創造への関心</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など</li> </ul>

下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
2 小学校 図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>形や色</u>などの造形的な視点について理解すること。</li> <li>など</li> <li>感性を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて<u>材料や用具</u>を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能を身に付けること。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力。</li> <li>など</li> <li>感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、自分たちの作品や美術作品などについての自分の見方や感じ方を深め、味わう力。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象を心に感じ取る感性</li> <li>感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び</li> <li>造形的な創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li><u>形や色</u>などにより、生活を楽しく心豊かにする態度</li> <li><u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul>

下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

## 【高等学校】芸術科（美術Ⅰ）

◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての美術の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。

## 【高等学校】芸術科（工芸Ⅰ）

◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての工芸の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり工芸を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

## 【中学校】美術科

◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりする力を育てる。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

## 【小学校】図画工作科

◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する創造的な技能を身に付けるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深め、味わう力を育てる。
- ③ つくりだす喜びを味わうとともに、感性をはぐくみ、楽しく豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

## 【幼稚園】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）  
・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）

形や色、材料などを操作したり用いたりして思考・判断する

形や色、イメージなどを基に言葉を用いて思考・判断する

# A 表現

発想や構想をする

知識を得たり結び付けたり活用したりする

発想や構想をする

自分の表したいこと(主題)を考えて見付ける

材料などから表したいことを見付ける

創造的に発想する

自分の表現の意図を基に創造的に構想する

## 言語活動

アイデアスケッチなどに感じたことや考えなどを整理する

話したり話し合ったりする

説明し合ったり価値意識をもって批評し合ったりする

討論や根拠をもって批評し合う

他者への働きかけ  
他者からの働きかけ  
協働的な学び

形や色などの造形的な特徴やイメージなどに関わる

自分の表現の全ての学習活動に意図に応じて共通に働く資質・能力  
創意工夫して  
創造的な技能を働かせる

材料や用具の特性などを生かして創造的な技能を働かせる

見通しをもって技能を働かせる

主体的に活動に取り組む態度や感性、情操など

創造的な技能を働かせる

知識を得たり結び付けたり活用したりする  
材料や用具などの特性を生かしたりする

意図に応じて表し方を工夫する

作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わう

知識を得たり結び付けたり活用したりする

作品などを鑑賞する

自分の見方や感じ方を大切にして、作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わう

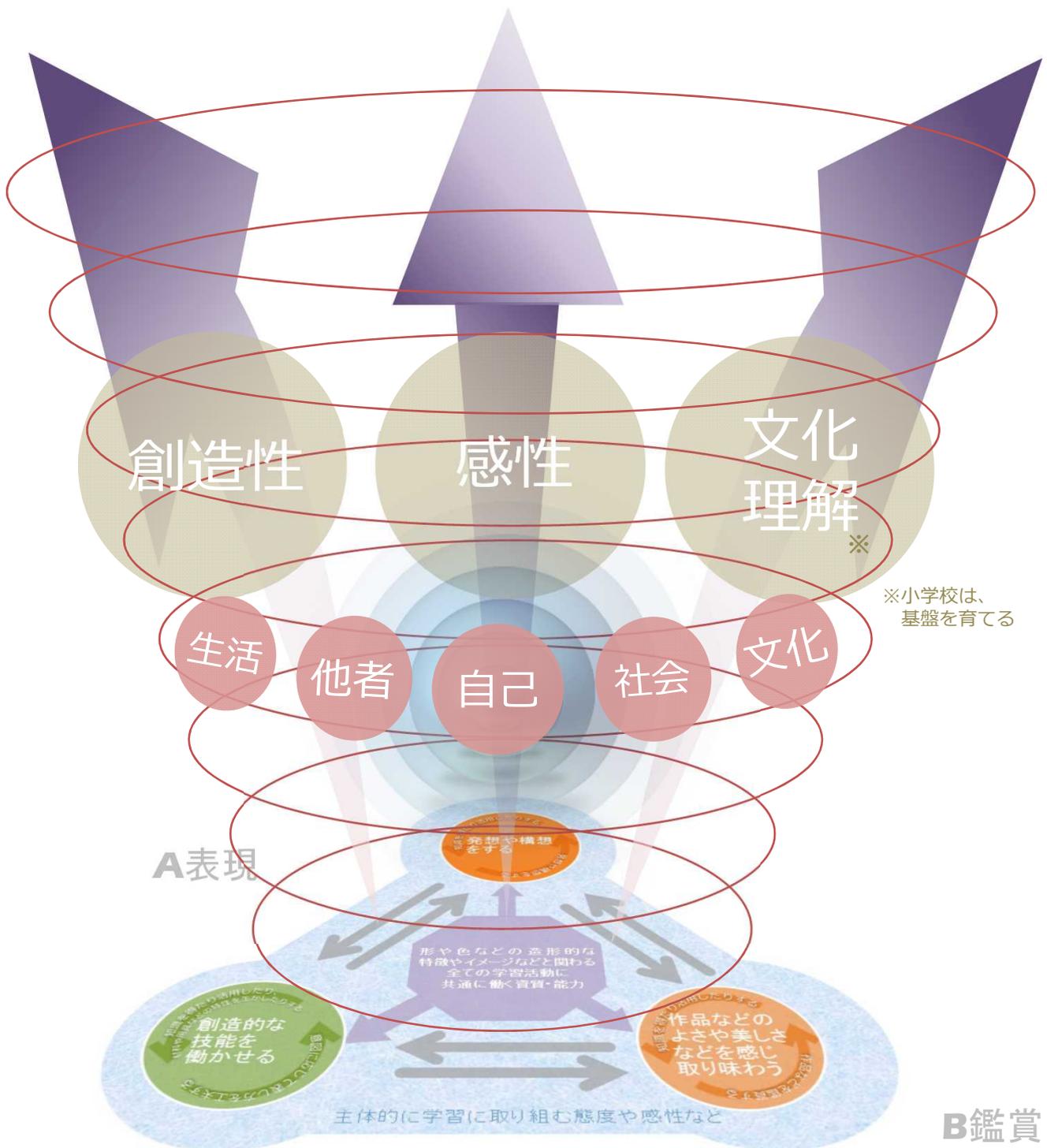
生活や社会の中の造形や美術の働きについて感じ取ったり理解を深めたりする

# B 鑑賞

美術文化や工芸の伝統と文化の理解を深める

形や色、イメージなどの視点をもち、  
生活や社会と豊かに関わる資質・能力の育成

## 豊かな情操



## (9) 芸術（書道）

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた芸術科（書道）の目標の在り方

#### i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 芸術科（書道）においては、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質・能力の育成等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関連を図りながら能動的に学習を深めていくことや、書への永続的な愛好心を育むこと等については、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。

#### ii) 課題を踏まえた芸術科（書道）の目標の在り方

- 芸術科（書道）で育成を目指す資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。
- 芸術系教科・科目における「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。知識が、体を動かす活動なども含むような学習過程を通じて、個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念<sup>145</sup>として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通じて、更新されていくことが重要である。（なお、ここで言う概念の習得が一般概念の習得にとどまるものではないことに留意する必要がある。）
- このことを踏まえて、「知識」に関しては以下のことが重要であり、発達の段階に応じて整理していく必要がある。
  - ・ [共通事項] を学習の支えとして、書を構成する要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること
  - ・ 芸術に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解すること

---

<sup>145</sup> 脚注 44 参照。

- また、芸術系教科・科目における「技能」についても、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが重要である。
- 以上のような「知識・技能」の整理とともに、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」についても三つの柱に沿った整理を行い、高等学校芸術科（書道）において育成を目指す資質・能力を別添10-1のとおり整理した。
- また、高等学校芸術科（書道）において育成する資質・能力は、小学校及び中学校の国語科（書写）において育成する、文字を正しく整えて（速く）書くこと、書写能力を学習活動や日常生活（社会生活）に生かすとともに、文字文化（手書きの意義や文字の由来など）について理解することといった資質・能力ともつながるものと考えられる。また、高等学校においては、資質・能力の育成に当たり、国語科の共通必修科目において育成する、書写能力を実社会・実生活に生かすことや、古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めることといった関連を図ることが考えられる。
- これらを踏まえ、育成を目指す資質・能力について、別添10-2のとおり整理しており、教科の目標についても、このような資質・能力の整理に基づき示すことが求められる。
- また、高等学校芸術科は、芸術への永続的な愛好心を育み、感性を高め、豊かな情操を養う教科であり、一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要である。したがって、今後も現行と同様に、音楽、美術、工芸、書道の選択制のもと、人間の精神の働きによって作りだされた有形・無形の成果の総体と言える芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、学校を卒業した後も、生涯にわたり我が国及び諸外国の芸術文化を尊重する態度の育成を重視していくことが大切である。

### iii) 芸術科（書道）における「見方・考え方」

- 芸術科（書道）の「見方・考え方」については、以下のとおり整理した。
  - ・感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。
- こうした芸術系教科・科目の「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることである。知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科等以上に芸術系教科・科目が担っている学びである。また、個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくこと、自分の感情のメタ認知なども含まれており、そこにも、芸術系教科・科目を学ぶ意義や必要性がある。

- また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではない。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きである。また、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものである。このため、子供たちの創造性を育む上でも、感性を働かせ育む芸術系教科・科目がこのことを担っている。

## ②具体的な改善事項

### i) 教育課程の示し方の改善

#### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 芸術科（書道）において、資質・能力を育成する学習過程の在り方について、別添10-3のとおり図示した。
- 芸術科（書道）においては、書表現のよさや美しさを感じ受けることで、書と豊かに関わることから書の創造的活動が展開する。育成する資質・能力と学習内容との関係を一層明確にしていく観点から、表現及び鑑賞の活動に共通に働く内容を、書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きを捉えることとして位置付けた。これは、「書に関する見方・考え方」と深く関係している。
- これらを支えとして、表現領域においては、知識や技能を活用しながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫していく過程を示した。また、鑑賞領域では、書表現を創造的に味わうことを通して、文字や芸術としての書の伝統と文化について深く捉え、文字や書の効用を生活や社会の中で生かしたり、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする過程を示した。

### イ 指導内容の示し方の改善

- 芸術科（書道）においては、現行の学習指導要領において、育成する資質・能力を明確化しているが、今後、学習内容との関係について三つの柱に沿って整理された資質・能力や学びの過程の考え方を踏まえて、それらの趣旨を実現すべく、次の点から指導内容の示し方を改善する。
  - ・ 学習内容を三つの柱に沿って整理された資質・能力の在り方を踏まえて見直し、A表現、B鑑賞それぞれの領域の中で育成を目指す「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」について整理する。また、別添10-3に示す学習過程を学習指導要領の構造に反映する。
  - ・ 表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕を、「見方・考え方」との関連を考慮して位置付ける。

## ii) 教育内容の改善・充実

- グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、書の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。
- 芸術系教科・科目においては、子供たちが、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と自分との関わりを築いていけるようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる。
- 子供たちが置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきている。こうした環境の変化を踏まえて、例えば、我が国のよき音楽文化を伝える教材を扱ったり、実際にものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動を重視したり、伝統的な書式で和紙の便箋や封筒を使用して手紙を書いたり、実感を伴う学習にするために畳や床の間といった伝統的な生活環境を活用したりするなど、学校教育において取り上げなければ出会うことのない教材や経験することのない活動を、子供たちに提供することも、学校教育の役割の一つである。
- 芸術系教科・科目においては、思考力・判断力・表現力等を高めるため、言語を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法（音や形、色など）を用いた言語活動や、音や形、色などにより表現されたことを捉えて言語化する言語活動を行っている。また、捉えたことを、喩えたり、見立てたり、置き換えたりすることは、表現や鑑賞を深めていく際に重要な活動である。このため、アクティブ・ラーニングの「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」の視点からの学習・指導の改善・充実を図る上でも、現行の学習指導要領において重視されてきた言語活動については、芸術系教科・科目の特質に応じた充実を図ることが求められる。

## iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 従来、芸術科（書道）においては、心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通してよさや価値を実感する活動を重視してきた。今後、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、活動と学びの関係性や、活動を通して何が身に付いたのかという観点から、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。
- 以下、高等学校芸術科（書道Ⅰ）を例に、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を実現する学習・指導の改善・充実の視点を示す。

- ・「主体的な学び」の実現のためには、生徒の作品の構想段階から完成に至るまでの作品の変容を実感的に確認することで、新たな見通しを持って次の表現へと展開していく活動、また、書の持つよさや美しさを創造的に捉え、自らの生活と関連付けたり、生活や社会における文字や書の働きについて考えたりする活動の充実を図り、それらの学習活動を振り返ることで、次の学びにつなげていくことが重要である。
- ・「対話的な学び」の実現のためには、感性を働かせて、書を構成する要素とそれらが相互に関連する働きの視点で書を捉え、作品について感じたことを確かな言葉で伝えたり、互いに批評し合ったりするなどの言語活動を通して、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉える活動を一層充実することが重要である。
- ・「深い学び」の実現のためには、中学校国語科（書写）の学習を発展させて、「書に関する見方・考え方」を働かせて、芸術としての書と豊かに関わりながら書の創造的活動を展開していくことが重要である。感性を働かせて、思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫していく表現の能力と、書のよさや美しさを感じ、創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連させながら、育成を目指す資質・能力を着実に身に付けていくことが重要である。

## イ 教材や教育環境の充実

- 芸術科（書道）において、生徒が「書に関する見方・考え方」を働かせながら、表現や鑑賞の活動を行うことができるよう、主たる教材などにおいては、「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」の視点からの学習過程の質的改善につながるよう、教材の示し方の工夫などが求められる。また、教員が生徒の実態に応じて、教材を選択して扱うことができるよう多様な視点から示していくことが大切である。
- こうした学習指導要領の趣旨を実現できるよう、引き続き、教員養成や教員研修による教員の資質・能力の向上、教材や材料、用具、環境等の整備を図ることが求められる。

# 芸術科（書道）において育成を目指す資質・能力の整理

2024  
高等学校  
芸術  
（書道）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>書を構成する要素とその表現効果の視点から、表現方法、形式、書表現の多様性などについて理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感性を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、書を構成する要素や<u>それらが相互に関連する働きの視点で捉える</u>などして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて構想し、表現を工夫すること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、書を構成する要素や<u>それらが相互に関連する働きの視点で捉え</u>、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、文字や書の伝統と文化の意味や価値を考えるなどして、書を味わって深く捉えること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>書の創造的活動の喜び</li> <li>芸術としての書の創造的活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり書を愛好する心情</li> <li>文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度</li> <li>書の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

## 【高等学校】

◎ 書に関する見方・考え方を働かせて、書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現を工夫して表すための効果的な技能を身に付けるようにする。
- ② 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする力を育てる。
- ③ 書の創造的活動の喜びを味わい、生涯にわたり書を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、芸術としての書を通して生活を心豊かにする態度を養う。

(国語科(必履修科目))

「現代の国語」(仮称)

・書写能力を実社会・実生活に生かすこと

「言語文化」(仮称)

・古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めること

## 225【中学校】

(国語科(書写))

- ・文字を正しく整えて速く書くことができる。
- ・書写能力を社会生活に生かすとともに、文字文化について理解することができる。

## 【小学校】

(国語科(書写))

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を学習活動や日常生活に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができる。

## 【幼児教育】 (※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。(思考力の芽生え)
- ・遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。(数量・図形、文字等への関心・感覚)
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。(言葉による伝え合い)
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。(豊かな感性と表現)

表現領域

鑑賞領域

書表現との出会い

書よさや美しさを感じる

書を構成する要素とその表現効果の視点からの理解

書を構成する要素とそれらが相互に関連する働きから捉える

- ・用具・用材の特徴、表現方法を理解する
- ・書の伝統に基づいた効果的な表現の技能を身に付ける

- ・書の形式や表現の多様性について理解する
- ・生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について理解する

臨書活動・創作活動

知識・技能

往還しながら深まってい

創作活動

・自らの思いや意図に基づいて、表現を構想する

【言語活動】  
 ・書こうとする言葉を選んだり、生み出したりする  
 ・表現の意図を言葉で表す

書を構成する要素を関連させながら、自らの構想に基づき、表現を工夫する

書を構成する要素による思考・判断

参考とする古典を選択する

用具・用材を選択する

全体構成を考える

書風の違いを比較する

書風を分析的に捉える

歴史的背景と関連付ける



・文字や芸術としての書の伝統と文化を書かれた言葉、歴史的背景などの関わりから捉える

【言語活動】  
 ・作品よさや美しさを考えたり説明し合ったりする  
 ・根拠をもって批評し合う

作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉える

言葉による思考・判断

知識

往還しながら深まってい

豊かな情操、生活や社会における文字や書に豊かに関わる資質・能力の育成

書に対する感性

## (10) 家庭、技術・家庭

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

#### i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、社会構造の変化や家庭や地域の教育力の低下等に伴い、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。
- 技術・家庭科技術分野においては、社会、環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し具体的な活用方法を考え出す力や、目的や条件に応じて設計したり、効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題があるとの指摘がある。また、社会構造の変化等に主体的に対応し、よりよい生活や持続可能な社会を構築していくため、技術分野では、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう、技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用することが求められる。

#### ii) 課題を踏まえた家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

- 家庭科、技術・家庭科の目標については、次のとおり設定する。家庭科、技術・家庭科家庭分野では、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見出して課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを目標とする。(別添1 1-1、別添1 1-3を参照)

技術・家庭科技術分野では、実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成することを目標とする。(別添1 1-2、別添1 1-4を参照)

#### iii) 家庭科、技術・家庭科における「見方・考え方」

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野では、人の生活の営みに係る多様な生活事象を学習対象としている。生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理した。なお、この「見方・考え方」に示される視点は、相互に関わり合うものであり、児童生徒の発達の段階を踏

まえるとともに、例えば、衣食住の生活に関する内容においては、「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」を主として考察する視点とするなど、取上げる内容や題材構成等によってどの視点を重視するのかを適切に定める必要がある。

- 技術・家庭科技術分野では、技術の開発・利用の場面において用いられている、「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること」という技術ならではの視点や思考の枠組みを、「技術の見方・考え方」として整理した。

## ②具体的な改善事項

### i) 教育課程の示し方の改善

#### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野で育成することを目指す資質・能力は、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考えられる。そこで学習過程を、1) 生活の課題発見、2) 解決方法の検討と計画、3) 課題解決に向けた実践活動、4) 実践活動の評価・改善と整理した。なお、家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。(別添1 1-5を参照)
- 技術・家庭科技術分野で育成することを目指す資質・能力は、単に何かをつくるという活動ではなく、「技術の見方・考え方」を働かせつつ、生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決方策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行い、その解決結果や解決過程を評価・改善するという活動の中で効果的に育成できると考えられる。そこで学習過程を、1) 既存の技術の理解と課題の設定、2) 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画、3) 課題解決に向けた製作・制作・育成、4) 成果の評価と次の問題の解決の視点と整理した。(別添1 1-6を参照)

#### イ 指導内容の示し方の改善

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野の指導内容については、次の三点から示し方を改善することが求められる。第一には、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化である。児童生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当である。また、この枠組みは、①iii) に示した「見方・考え方」も踏まえたものである。
- 第二には、空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化である。空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の

視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉えて指導内容を整理することが適当である。

- 第三には、学習過程を踏まえた改善である。生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理することが適当である。
- 技術・家庭科技術分野の指導内容については、資質・能力や学習過程との関連を図ることが適当であり、以下の内容で構成することが考えられる。
  - ・ 技術の仕組みや役割、進展等を、科学的に理解することで、「技術の見方・考え方」に気付き、課題の解決に必要な知識・技能を習得させる内容（「生活や社会を支える技術」）
  - ・ 習得した知識・技能を活用して、生活や社会における技術に関わる問題を解決することで、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、技術によって問題を解決できる力や技術を工夫し創造しようとする態度を育成する内容（「技術による問題解決」）
  - ・ 自らの問題解決の結果と過程をふり返ることで、身に付けた「技術の見方・考え方」に沿って生活や社会を広く見つめなおす内容（「社会の発展と技術」）

## ii) 教育内容の改善・充実

### ア 科目構成の見直し

- 高等学校家庭科においては、自立した生活者として必要な生活の科学的な理解、生活課題を解決する力の育成について一層の充実が求められる。また、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことなども踏まえて、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする態度や主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度を育成することが一層求められている。
  - ・ 科目構成と内容については、現行の「家庭基礎」（2単位）「家庭総合」（4単位）及び「生活デザイン」（4単位）の3科目から、各科目の履修状況を踏まえて、内容を再構成し「家庭基礎（仮称）」「家庭総合（仮称）」の2科目とすることが適当である。
  - ・ 「家庭基礎（仮称）」では、高等学校の卒業段階において、自立した生活者として必要な実践力を育成することを重視した基礎的な内容構成とする。
  - ・ 「家庭総合（仮称）」では、従前の「家庭総合」や「生活デザイン」の内容を引き継ぎ、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させるとともに、主体的に生活を設計することや、生活文化の継承・創造等、生活の価値や質を高め豊かな生活を創造することを重視した内容構成とする。

## イ 教育内容の見直し

- 今後の社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められることから、家庭科、技術・家庭科においては、学校種ごとに次のような教育内容の見直しを図ることが必要である。

### (小学校 家庭科)

- 小学校家庭科については、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」に関する三つの内容で構成する。家族の一員として家庭の仕事に協力するなど、家庭生活を大切にする心情を育むための学習活動や、家族や地域の異世代の人々と関わるなど、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関する学習活動を充実する。また、消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。さらに、主として衣食住の生活において、日本の生活文化の大切さに気付く学習活動を充実する。
- 学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域と連携を図った生活の課題と実践に関する指導事項を設定することや、基礎的な知識・技能を確実に身に付けるために、一部の題材を指定することも考えられる。

### (中学校 技術・家庭科 技術分野)

- 技術・家庭科技術分野については、生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ、材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の専門分野における重要な概念等を元にした教育内容とする。なお、急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし、発展させるという視点から、従前からの計測・制御に加えて、動的コンテンツに関するプログラミングや、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングも題材として扱うことが考えられる。その際、情報セキュリティ等についても充実する。
- また、技術の発達を支え、技術改革を牽引するために必要な資質・能力を育成する視点から、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度や使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観の育成を重視する。併せて、技術の高度化や産業構造の変化等の社会の変化を踏まえ、我が国に根付いているものづくりの文化や伝統的な技術の継承、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、経済的主体等として求められる働くことの意義の理解、他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとする事、安全な生活や社会づくりに貢献しようとする事等を重視する。

### (中学校 技術・家庭科 家庭分野)

- 技術・家庭科家庭分野については、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」に関する三つの内容で構成する。家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働

することや、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動を充実する。また、金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。さらに、主として衣食住の生活において、日本の生活文化を継承する学習活動を充実する。

- 学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容を充実する。

### (高等学校 家庭科)

- 高等学校家庭科の教育内容については、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、男女が協力して主体的に家庭を築いていくことや親の役割と子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活を設計するための意思決定や消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習活動を充実する。また、これらの学習により身に付けた知識・技能を活用して、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実する。

- これらのことを踏まえ、「家庭基礎（仮称）」では、子供を生き育てることや子供と関わる力を身に付けるなどの乳児期に関する内容や、高齢者の生活支援技術の基礎に関する内容を充実する。また、自立した生活者として必要な衣食住の生活や生活における経済の計画等などの実践力の定着を図るための学習活動を充実する。

「家庭総合（仮称）」では、乳児との触れ合いや子供とのコミュニケーション、高齢者の生活支援技術、グローバル化に対応した日本の生活文化等に関する内容を充実する。また、生活を総合的にマネジメントできるように、健康や安全等を考慮するとともに生活の価値や質を高める豊かな衣食住の生活を創造するための実践力を身に付けるための学習活動を充実する。

- なお、家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を一層充実する。

### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

#### ア 主体的・対話的で深い学びの実現

- 家庭科、技術・家庭科における「主体的な学び」とは、現在及び生涯を見通した生活の課題について、解決の見通しを持ち、課題の発見や解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学びである。そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関

わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組むことなどが考えられる。

- 「対話的な学び」とは、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。なお、技術・家庭科技術分野では、例えば、直接、他者との対話を伴わずとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども、自らの考えを広げ深める学びとなる。
- 「深い学び」とは、児童生徒が、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学びである。このような学びを通して、生活や技術に関する事実に基づく知識が概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・熟達（定着）が図られたりする。また、このような学びの中で「対話的な学び」や「主体的な学び」を充実させることによって、家庭科、技術・家庭科が目指す思考力・判断力・表現力も豊かなものとなり、生活や技術についての課題を解決する力や、生活や技術を工夫し創造しようとする態度も育まれると考えられる。

## イ 教材や教育環境の充実

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、生活事象の原理・原則を科学的に理解するための指導や学習の見通しをもたせる指導、個に応じた指導、児童生徒の協働的な学びを推進するための指導において、ICTの活用を充実することが求められる。また、実感を伴った理解を深めるために、実際に見たり、触れたりすることができる実物や標本、乳幼児触れ合い体験や高齢者疑似体験等に必要な教材の充実が求められる。
- 技術・家庭科技術分野においては、例えば、「情報の技術」におけるプログラミングに関する内容の充実に対応し、必要な機能をもったプログラムの開発環境を整備したり、「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」の段階において、モデルを試作するための3DCADや3Dプリンタ等を必要に応じて整備したりするといった、内容や学習過程に応じた教材の整備について検討することが求められる。
- 全ての学校で家庭科、技術・家庭科の指導を充実するには、幼稚園や保育所等、高齢者施設、消費生活センター、工業試験場や農業試験場、民間企業、公民館や博物館・科学館、関連する分野の専門高校等との連携について検討することが求められる。また、指導対象である生活や技術が変化し続けるという家庭科、技術・家庭科の特質を踏まえ、教員が常に新たな情報を入手し、教材研究や指導力向上を図ることができる研修の充実も必要である。

# 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
家庭 高等学校 (共通教科)	<p>自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭についての理解</li> <li>・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能</li> <li>・生涯の生活設計についての理解</li> <li>・各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能</li> <li>・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能</li> </ul>	<p>家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力</li> <li>・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p>相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度</li> <li>・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度</li> <li>・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度</li> </ul>
233 技術・家庭 中学校	<p>生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の基本的な機能及び家族についての理解</li> <li>・幼児、高齢者についての理解と技能</li> <li>・生活の自立に必要な衣食住についての理解と技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての基礎的な理解と技能</li> </ul>	<p>家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に表現する力</li> <li>・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p>家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度</li> <li>・地域の人々と関わり、協働しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承しようとする態度</li> <li>・将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとする態度</li> </ul>
家庭 小学校	<p>日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活と家族についての理解</li> <li>・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能</li> </ul>	<p>日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力</li> <li>・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p>家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を大切にしている心情</li> <li>・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度</li> <li>・生活をしようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を大切にしようとする態度</li> </ul>

# 技術・家庭科（技術分野）において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	-----	-----	-----
234 中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換，情報等の技術についての基礎的な理解と技能及び，技術と生活や社会との関わりの理解</li> <li>・技術に用いられている科学的な原理・法則の理解</li> <li>・技術を安全・適切に管理・運用できる技能</li> <li>・技術の概念の理解</li> <li>・技術の役割と，生活や社会，環境に与える影響についての理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力</li> <li>・生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し，解決すべき課題を設定する力</li> <li>・課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力</li> <li>・課題の解決策を製作図，流れ図，作業計画表等に表す力</li> <li>・試行・試作等を通じて解決策を具体化する力</li> <li>・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度</li> <li>・進んで技術と関わり，主体的に技術を理解し，技能を身に付けようとする態度</li> <li>・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって，解決策を構想しようとする態度</li> <li>・自らの問題解決とその過程を振り返り，改善・修正しようとする態度</li> <li>・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度，技術に関わる倫理観，他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度</li> </ul>
小学校	-----	-----	-----

空間軸 時間軸

社会

生涯を見通した生活

地域

これからの生活

家庭

現在・これまでの生活

## 【高等学校】 共通教科

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
  - ①自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
  - ②家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
  - ③様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。
    - 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
    - ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

## 【中学校】

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
  - ①家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
  - ②家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
  - ③自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
    - 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
    - ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

## 【小学校(高学年)】

- ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
  - ①日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
  - ②日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
  - ③家庭生活を大切にできる心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
    - 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
    - ◇ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費生活や環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

## 【小学校(低・中学年)】(※現行学習指導要領をもとに作成)

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等

## 【幼児教育】(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- 幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。
- 家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。
- 身近な環境に主体的に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らしなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動するようになる。

## 【高等学校】

（情報の共通必修科目）

○情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる

①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う

②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う

③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

（職業に関する各教科・科目）

○各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。

○各職業分野に関する課題（求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）を発見し、職業人としての倫理観をもって、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。

○職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

## 【中学校 技術・家庭科】

◎生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。

②生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

③よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 【中学校】

◎技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。

①生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

②生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。

③よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

●生活や社会における問題を見出し課題を設定した上で、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価・改善する学習活動を充実する。

◇プログラミングに関する内容を充実するとともに、技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化を踏まえ、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度、使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観、ものづくりや日本の伝統的な技術、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、生産などの経済的主体等として求められる働くことの意義の理解や、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度、安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を重視する。

## 【小学校】（※現行学習指導要領等をもとに作成）

○身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付く、基礎的なプログラミングの思考を身に付け、コンピュータの働きを自分の生活に生かそうとする。（総則）

○手や体全体の感覚等を働かせ、経験を活かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する（図画工作）

○身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）

○ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や働き、規則性についての実感を伴った理解を図る（理科）

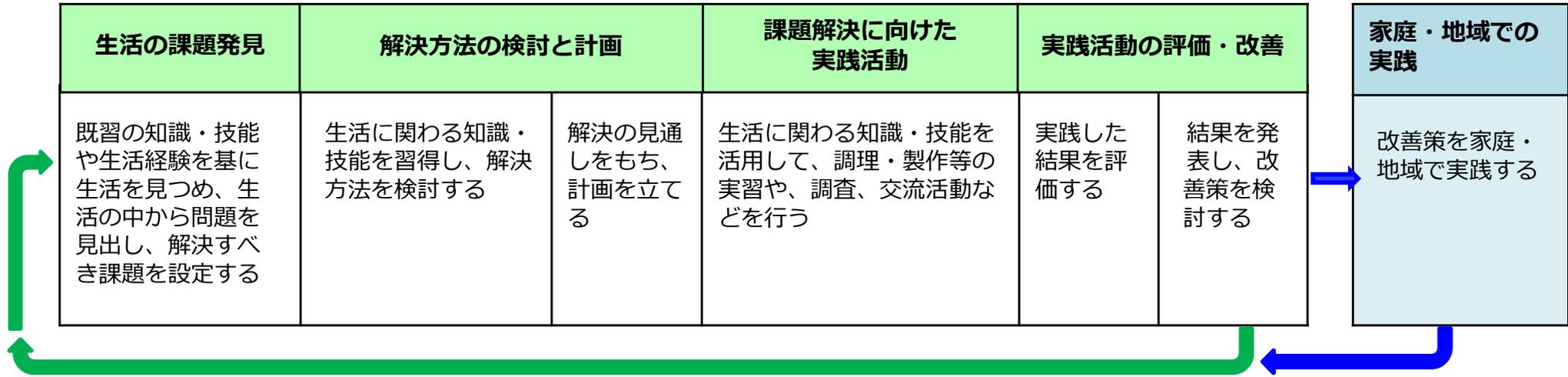
○道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳）等

## 【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

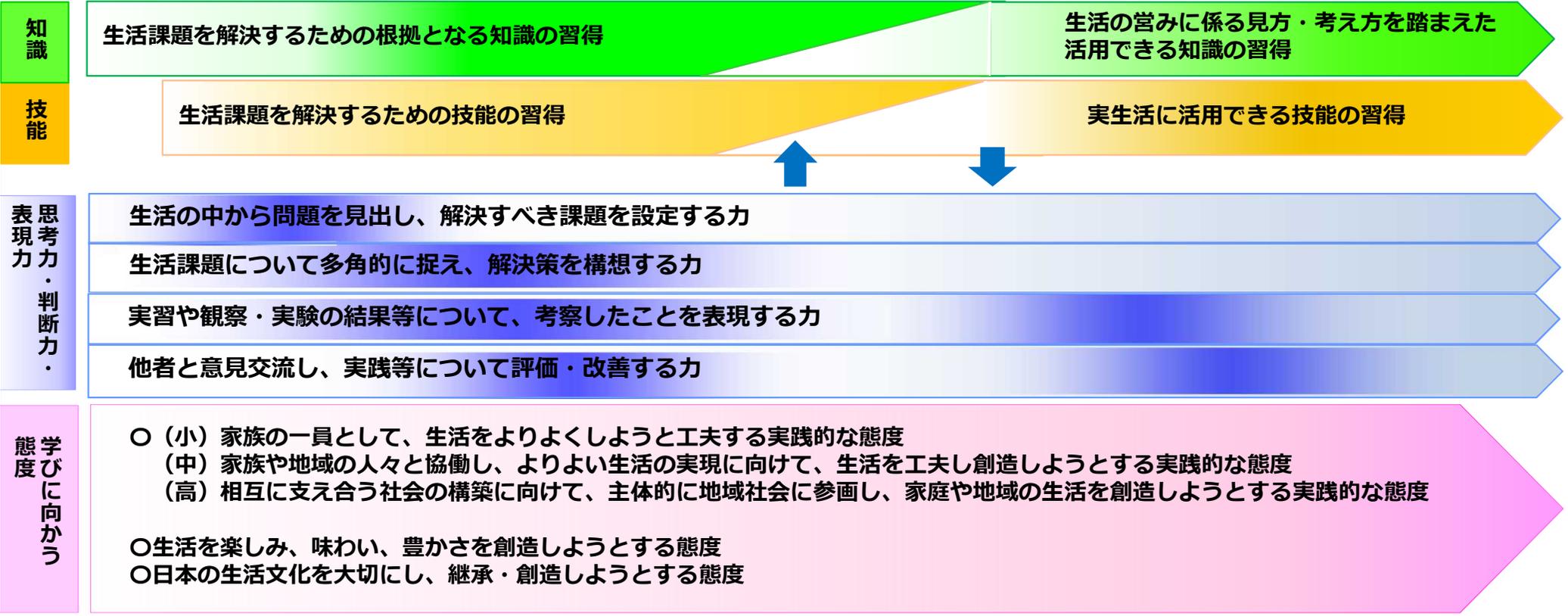
○身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

○遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとして、情報を取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。

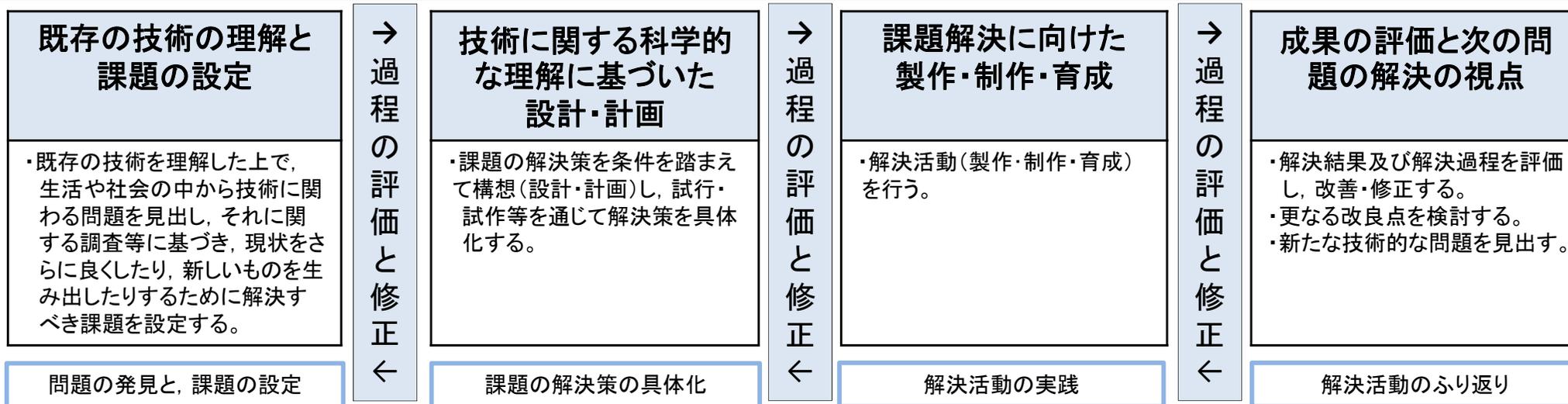
# 家庭科，技術・家庭（家庭分野）の学習過程のイメージ



237 【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】



※上記に示す各学習過程は例示であり，上例に限定されるものではないこと



## 【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術に用いられている科学的な原理・法則の理解</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術の概念の理解 ○技術の役割と、生活や社会、環境に与える影響についての理解</li> </ul>			
思考力・判断力・表現力		○技術を安全・適切に管理・運用できる技能		
	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力			
		○課題の解決策を条件を踏まえて構想(設計・計画)する力 ○試行・試作等を通じて解決策を具体化する力		
	○課題の解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する力			
態度		○課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力		
	○進んで技術と関わり、主体的に技術を理解し、技能を身に付けようとする態度			
		○自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度		
	○自らの問題解決及びその過程をふり返し改善・修正しようとする態度			
	○知的財産を創造・保護・活用しようとする態度 ・技術に関わる倫理観 ・他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度			

※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

## (11) 体育、保健体育

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた体育科、保健体育科の目標の在り方

#### i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 体育科、保健体育科については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健との一層の関連や発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきた。
- その中で、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まった<sup>146</sup>こと、体力の低下傾向に歯止めがかかった<sup>147</sup>こと、「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果がみられる。
- 他方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられる<sup>148</sup>こと、子供の体力について、低下傾向には歯止めがかかっているものの、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、依然として低い状況がみられる<sup>149</sup>ことなどの指摘がある。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘がある。

#### ii) 課題を踏まえた体育科、保健体育科の目標の在り方

- 体育科、保健体育科では、これらの課題を踏まえ、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育成することを目標として示す。(別添12-1、別添12-2を参照)

---

<sup>146</sup> スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問への「好き」の回答の割合は、平成24年度調査結果は、小学校(第5学年)男子72.7%、同女子53.6%、中学校(第2学年)男子62.6%、同女子43.5%、平成27年度調査結果は、小学校(第5学年)男子74.0%、同女子56.5%、中学校(第2学年)男子64.8%、同女子48.1%となっている。

<sup>147</sup> 文部科学省の「文部科学省白書2015」では、子供の体力の現状と課題について、新体力テストとなって以降の直近17年間の合計点の推移を見てみると、ほとんどの年代で緩やかな向上傾向となっており、平成26年度の結果は多くの年代で過去最高を記録しているとされている。

<sup>148</sup> スポーツ庁の「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、例えば、中学校(第2学年)女子において、1週間の総運動時間が420分以上の割合が58.9%である一方、1週間の総運動時間が60分未満の割合は21.0%となっている。

<sup>149</sup> 文部科学省の「文部科学省白書2015」では、子供の体力の現状と課題について、長期的にみると、体力水準が高かった昭和60年頃との比較では、握力及び走、跳、投能力にかかる項目は、依然低い水準となっている(中学校男子の50m走及びハンドボール投げ並びに高校男子の50m走を除く)とされている。

### iii) 体育科、保健体育科における「見方・考え方」

- 体育科、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを踏まえ、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成や健康の保持増進のための実践力の育成及び体力の向上について考察することが重要である。
- 「体育の見方・考え方」については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値<sup>150</sup>や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。」と整理した。
- 「保健の見方・考え方」については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。」と整理した。

### ②具体的な改善事項

#### i) 教育課程の示し方の改善

#### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 体育科、保健体育科における学習過程については、これまでも心と体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに、体育科、保健体育科で育成を目指す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要がある。(別添12-3)
  - ・ 体育については、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、運動に対する興味や関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える」に「知る」を加え、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る。また、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。
  - ・ 保健については、健康に関心をもち、自他の健康の保持増進や回復を目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることができるよう、知識の指導に偏ることなく、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、

---

<sup>150</sup> 運動やスポーツの価値とは、例えば「公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全」等が挙げられる。

充実を図る。また、健康課題に関する課題解決的な学習過程や、主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。

## イ 指導内容の示し方の改善

○ 体育科、保健体育科の指導内容については、(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等、(3)学びに向かう力・人間性等の育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示す。

・体育については、「体育の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識・技能」、運動課題の発見・解決等のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かし、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある。

・保健については、「保健の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、健康な生活と疾病の予防、心身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等の保健の基礎的な内容について、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある。

## ii) 教育内容の改善・充実

### (小学校 体育)

○ 小学校運動領域については、運動の楽しさや喜びを味わうための基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。また、保健領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

・全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的ではない児童への指導等の在り方について配慮する。

- ・オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実については、児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値<sup>151</sup>等に触れることができるよう指導等の在り方について改善を図る。

- 保健領域については、身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化するとともに、「技能」に関連して、心の健康、けがの防止の内容の改善を図る。また、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

### (中学校 保健体育)

- 中学校体育分野については、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。また、保健分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

- ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する。

- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動<sup>152</sup>の内容等について改善を図る。

- ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値<sup>153</sup>等の内容等について改善を図る。

---

<sup>151</sup> スポーツ基本法第二条第二項では、「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものである 下略」とされている。

<sup>152</sup> 現在、中学校の体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、第1学年及び第2学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにすることを、第3学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにすることをねらいとしている。

<sup>153</sup> 第1部5.(5)参照。

- ・グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道<sup>154</sup>の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。

- 保健分野については、個人生活における健康・安全についての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実する。また、個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

### （高等学校 保健体育）

- 高等学校科目体育については、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。また、科目保健との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

- ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう配慮する。

- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付け、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動<sup>155</sup>の内容等について改善を図る。

- ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値及びドーピング等の内容等について改善を図る。

- 科目保健については、個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。その際、少子高齢化や疾病構造の変化による現代的

---

<sup>154</sup> 日本武道協会加盟団体実施種目・・・柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道

<sup>155</sup> 現在、高等学校の体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにすることをねらいとしている。

な健康課題<sup>156</sup>の解決に関わる内容や、ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び一次予防のみならず、二次予防や三次予防<sup>157</sup>に関する内容を改善するとともに、人々の健康を支える環境づくりに関する内容の充実を図る。また、科目体育と一層の関連を図り、心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善を図る。

### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

#### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

○ 体育科、保健体育科における資質・能力を育成するための学びの過程は、運動や健康についての課題や児童生徒の実態等により様々であるが、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学習・指導の改善・充実の視点に基づき、以下のとおり整理することができる。なお、これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科、保健体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものでないことに留意することが大切である。

- ・「主体的な学び」は、運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。
- ・「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。
- ・「深い学び」は、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程と捉えられる。児童生徒の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、体育科、保健体育科の「見方・考え方」を育てることを重視するものである。

---

<sup>156</sup> 死因として最多はがんで、第2位が心疾患であり、これらの生活習慣病は、死因の約6割、国民医療費の約3割を占めている。また、20代の死因の半数は自殺で、その動機や原因の約4割が仕事関連の悩みとうつ病によるものと指摘されている。少子高齢化については、若い世代の出産・子育てや高齢化に伴う健康寿命の延伸などの課題が指摘されている。

<sup>157</sup> 疾病予防の考え方として、一次予防（適正な食事や運動不足の解消、禁煙、ストレスコントロールといった健康的な生活習慣づくりの取組や予防接種、環境改善、事故の防止など）、二次予防（検診等による病気の早期発見と早期治療など）、三次予防（適切な治療により病気や障害の進行を防ぐことなど）がある。

## イ 教材や教育環境の充実

- 「主体的・対話的で深い学び」の過程を踏まえて、体育については、学習したことを実生活や実社会で生かし、運動やスポーツの習慣化につなげたり、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択したりすることができるよう、教材の工夫やICTの活用を図ることが重要である。保健については、同様に、健康に関する課題解決的な学びや児童生徒の多様なニーズ、興味や関心を踏まえ、教科書を含めた教材を工夫することが重要である。また、保健の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成を目指してICTの活用を図ることが重要である。
- 体育科、保健体育科の改善に向けて、教員養成、教員研修、教材整備等の環境を整えていくことも必要である。その際、体育については、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するとともに、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。また、保健については、少子高齢化や疾病構造の変化等の社会環境に対応し、子供たちが生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。

# 体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理〈高等学校〉

別添12-1

高等学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
科目体育  246	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方の知識</li> <li>・体力の高め方の知識</li> <li>・課題解決の方法の知識</li> <li>・伝統的な考え方の知識</li> <li>・競技会、発表会の仕方や審判の方法等の知識 など</li> </ul> <p>スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力及び目的に応じた技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする</li> </ul>	<p>自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力</li> <li>・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力</li> <li>・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力</li> <li>・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力</li> <li>・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力</li> <li>・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力</li> <li>・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を見付ける力</li> <li>・思考・判断したことを、根拠を示し示したり他者に配慮したりして、相手に伝えたり表現したりする力 など</li> </ul>	<p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度</li> <li>・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組む、仲間と主体的にかかわり協力する、役割に責任をもって取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲を持つ</li> <li>・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする</li> <li>・運動実践の場面で、健康・安全を確保する</li> <li>・スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができる態度 など</li> </ul>
科目保健	<p>個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識(一次予防だけでなく二次予防、三次予防も含む)</li> <li>・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識</li> <li>・社会生活と健康に関する知識</li> <li>・社会資源の活用、応急手当に関する技能</li> </ul>	<p>健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に関わる健康課題を発見する力</li> <li>・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力</li> <li>・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力</li> <li>・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する力</li> <li>・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ伝える力</li> </ul>	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ</li> <li>・社会生活において健康・安全を優先する</li> <li>・自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに参画する</li> </ul>

# 体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理〈中学校〉

中学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
体育分野 247	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方の知識</li> <li>・運動の特性や成り立ちの知識</li> <li>・体力の要素や高め方の知識</li> <li>・運動観察の方法の知識</li> <li>・伝統的な考え方の知識 など</li> </ul> <p>スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の基礎的な知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた基本的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする</li> </ul>	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力</li> <li>・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力</li> <li>・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力</li> <li>・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力</li> <li>・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付ける力</li> <li>・運動を継続して楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を見付ける力</li> <li>・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝えたり表現したりする力 など</li> </ul>	<p>生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組む態度</li> <li>・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ</li> <li>・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする</li> <li>・運動実践の場面で、健康・安全を確保する</li> <li>・スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる態度 など</li> </ul>
保健分野	<p>個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識</li> <li>・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能</li> </ul>	<p>健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康課題を発見する力</li> <li>・健康情報を収集し、批判的に吟味する力</li> <li>・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力</li> <li>・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力</li> <li>・自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力</li> </ul>	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康に関心をもつ</li> <li>・自他の健康に関する取組のよさを認める</li> <li>・自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する</li> <li>・自他の健康の保持増進に主体的に取り組む</li> </ul>

# 体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理 〈小学校〉

小学校 体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
運動領域 248	<p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種の運動の行い方に関する基礎的な知識</li> <li>各種の運動を行うための基本的な技能</li> </ul>	<p>自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力に適した課題に気付く力</li> <li>自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力</li> <li>思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力</li> </ul>	<p>運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学習活動に取り組む</li> <li>約束を守り、公正に行動する</li> <li>友達と協力して活動する</li> <li>自分の役割を果たそうとする</li> <li>友達の考えや取組を認める</li> <li>安全に気を配る</li> </ul>
保健領域	<p>身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な生活、発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する基礎的な知識</li> <li>不安や悩みの対処やけがの手当に関する基礎的な技能</li> </ul>	<p>身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な健康課題に気付く力</li> <li>健康課題に関する情報を集める力</li> <li>健康課題の解決方法を予想し考える力</li> <li>学んだことを自己の生活に生かす力</li> <li>学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力</li> </ul>	<p>健康の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の健康に関心をもつ</li> <li>自己の健康の保持増進のために協力して活動する</li> <li>自他の心身の発育・発達などを肯定的に捉える</li> </ul>

発達段階



卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるこ  
とができるようにする

## 【高等学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び社会生活における健康についての理解を図るとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考・判断し、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

## 【中学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び個人生活における健康についての理解を図るとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、目的に応じて他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

## 【小学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解を図るとともに、基礎的な動きや基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自己の課題に気づき、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。
- ③ 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

## 【幼児教育】

(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述)

- 健康な心と体を育て、幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出し出していけるようになる。
- してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
- 身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。

個人及び社会生活の健康について  
より総合的に理解する

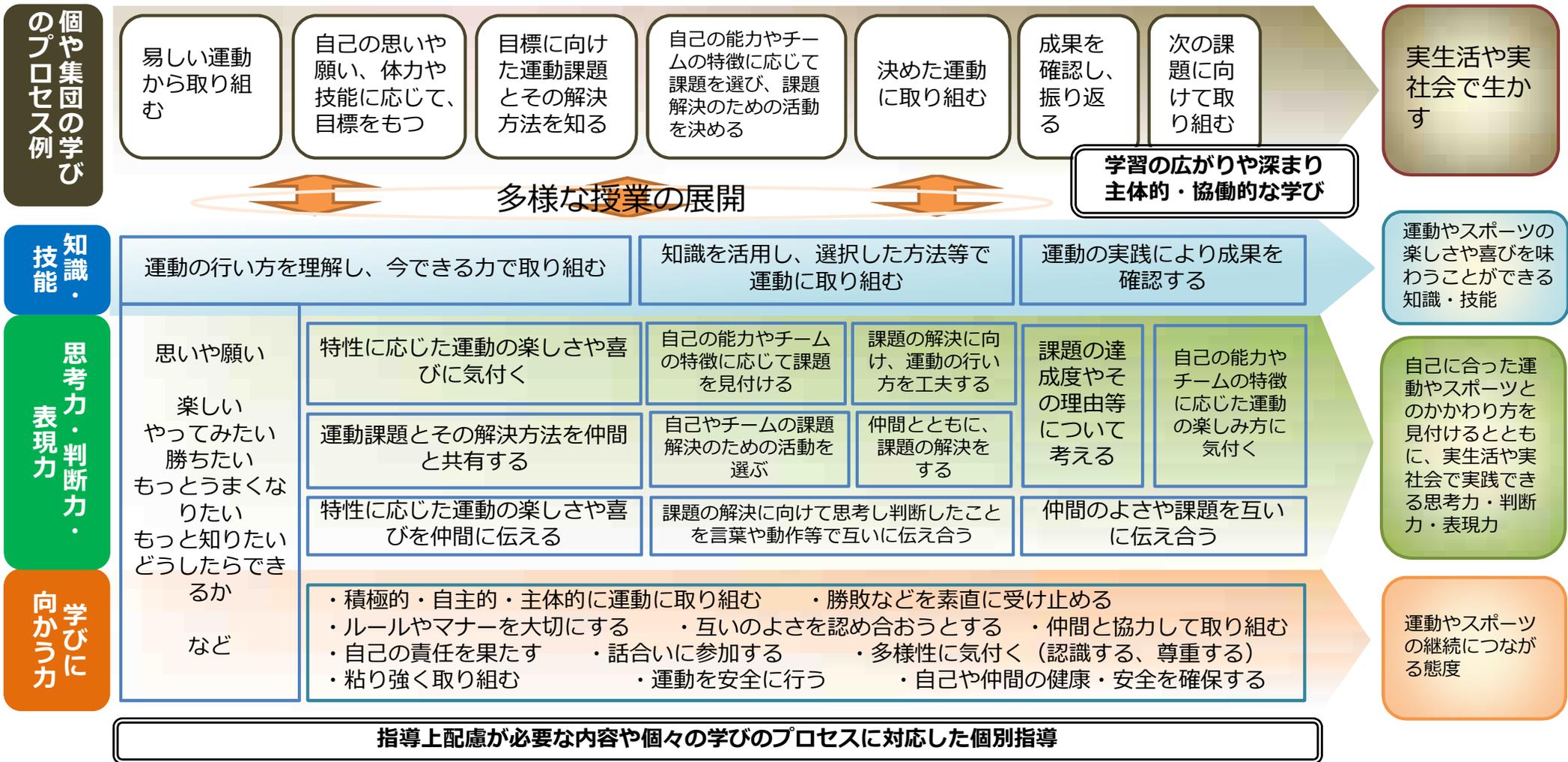
個人の健康について  
より科学的に理解する

身近な生活の健康  
について理解する

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を  
培う

体育の見方・考え方：運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること



250

**能力等の育成と主な評価の例**

**知識・技能**

- ・発達の段階に即して、運動の特性に応じた行い方や一般原則等の知識及びスポーツに関する科学的知識を理解し、各種の運動が有する特性や魅力に応じた動きや技能を身に付けている実現状況を評価する。

**思考・判断・表現**

- ・課題に応じて活動を選んだり工夫したり、課題に応じた運動の取り組み方を工夫したり、伝える相手や状況に応じてわかりやすく表現することなどの実現状況を評価する。

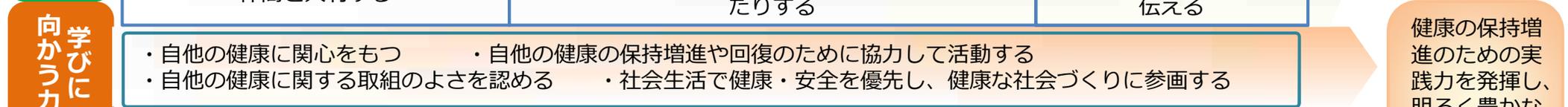
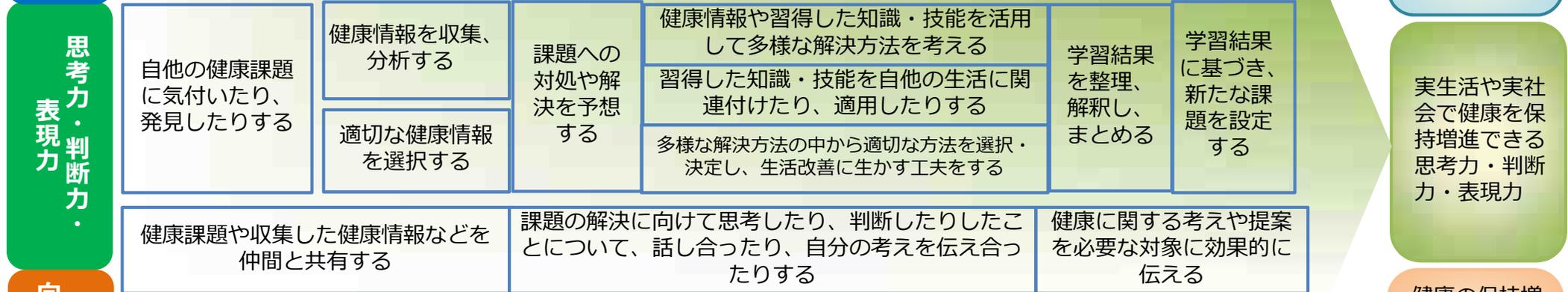
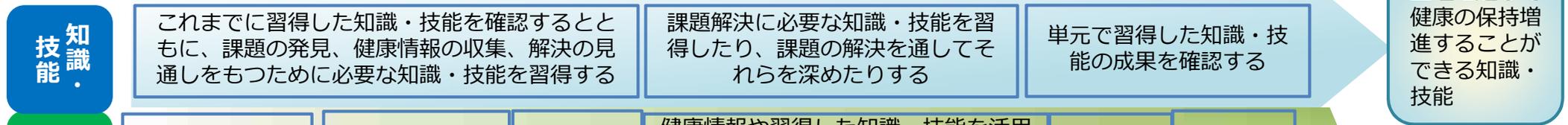
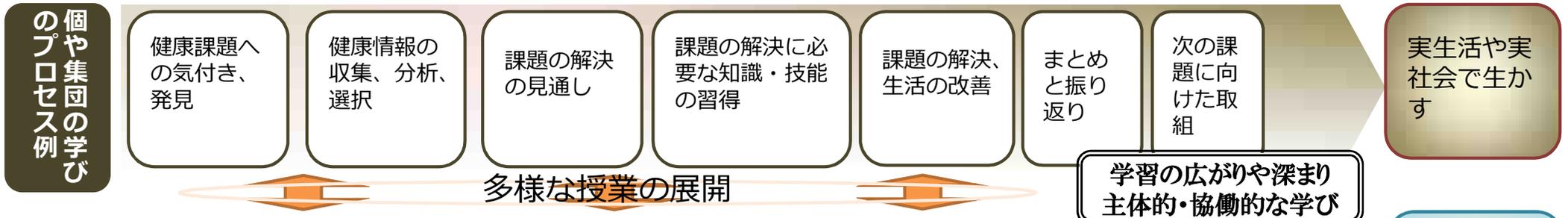
**主体的態度**

- ・主体的に運動に取り組もうとするとともに、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度の実現状況を評価する。

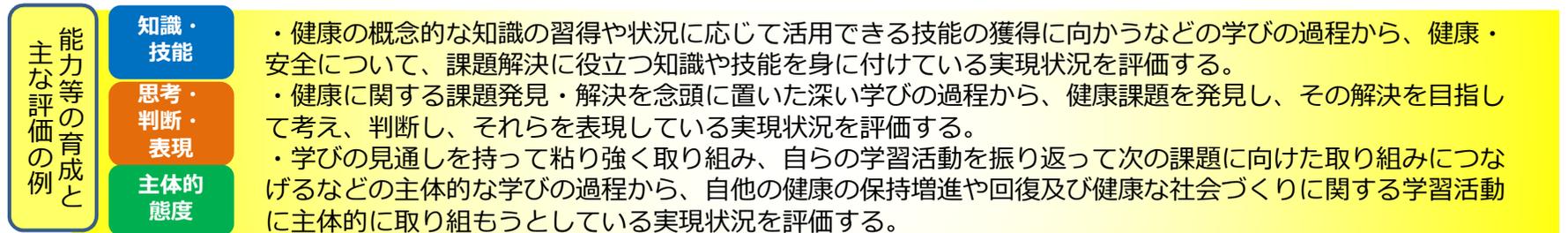
※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、これに限定されるものではない。また、必ずしも順序性を示したものではなく、一方向の流れではない。

# 体育科・保健体育科（保健）における学習過程のイメージ

保健の見方・考え方：個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること



## 指導上配慮が必要な内容や個々の学びのプロセスに対応した個別指導



※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

## (12) 外国語

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

#### i) 現行学習指導要領の成果と課題

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力<sup>158</sup>は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 現行の学習指導要領は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。
- 一方で、指導改善による成果が認められるものの、児童生徒の学習意欲に関わる課題や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。
- 中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある。

#### ii) 課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

- これらの課題を踏まえ、特に、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点から、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、更に外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として改善を図る。（別添13-1を参照）

---

<sup>158</sup> コミュニケーション能力については様々な考え方があがるが、文部科学省の有識者会議の報告（コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」平成23年8月29日）においては「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義している。本ワーキンググループにおける議論においては、こうした定義も踏まえ、外国語教育における特質に配慮しながら、外国語によるコミュニケーション能力について、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力として整理している。

併せて、後述iii)の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において求められている資質・能力を育むために必要な教科等目標を設定する。(別添13-2を参照)

### (育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた指標形式の目標の設定)

- 前述のように、外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、前述のような課題を踏まえ、①各学校段階の学びを接続させるとともに、②「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から目標の改善・充実を図る。
- 外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。
- このため、それらの育成を目指す力について、前述のような課題を踏まえつつ、国際的な基準であるCEFR<sup>159</sup>などを参考に、外国語学習の特性を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標を設定する。
- CEFRにおいては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能ではなく、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり: interaction)」、「話すこと(発表: production)」、「書くこと」という五つの領域において、単に、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されている<sup>160</sup>。このことを踏まえ、これまで「4技能」

<sup>159</sup> 国際的な基準: CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するに当たって用いられたりするなどしている。CEFRは、学習者、教授する者、評価者が共有することによって、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び、教え、評価できるよう」開発されたもの。「話すこと」のやりとり(interaction)は、少なくとも2人以上の個人が言葉のやりとりをする。その際、産出的活動と受容的活動が交互に行われ、口頭のコミュニケーションの場合は同時に行われることもあり、対話者が同時に話し、聞くだけでなく、聞き手は話し手の話を先回りして予測し、その間に答えを準備しているものであるなど、やりとりは言語使用と言語学習の中でも大きな重要性が認められ、コミュニケーションにおける中枢的役割を果たしているとされている。

<sup>160</sup> ①CEFRの文書において人間が言語を用いて行うタスク(人間の行為全般をCEFRではタスクと言う。)はreception(受容)、interaction(やりとり)、production(産出)の3領域に分かれており、それらが総合的に「コミュニケーション活動(communicative activities)」と呼ばれている(CEFRオリジナル文書2.1.3)。②自己評価表(self-assessment grid)の形式で、Listening、Reading、Spoken interaction、Spoken production、Writingの五つのタスクは、コミュニケーション能力の社会言語的側面、語用論的側面を含んだ多面的なものであり、それらの複雑な横軸の側面についてはCEFR文書Chapter 4、5で解説されており、多層的な「領域」と考えられており、③複雑な横軸の側面として具体的にCEFRのCAN-DO形式の目標で示されている内容はcommunicative competence(コミュニケーション能力)を示しており、

と称されることが多かった、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」については、国の指標形式の目標において五つの領域として示すこととする。

- 国が定める指標形式の目標については、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」について、外国語教育の目標に沿って、高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で設定する。このため、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり：interaction）」、「話すこと（発表 production）」、「書くこと」の五つの領域ごとに小学校中学年段階から児童生徒の発達の段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を設定するとともに、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動を一層重視した目標とする。（別添13-3を参照）
- また、育成を目指す資質・能力の三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」は、児童生徒が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識・技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」は不可分に結び付いている。児童生徒が興味を持って取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることが大切である。
- 各学校においては、国が学習指導要領に定める外国語の指標形式の目標を踏まえ、更に具体的に各校の学習到達目標を設定する。その際、個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、「知識・技能」を実際のコミュニケーションにおいて活用し、外国語で情報や自分の考えなどを表現し伝え合うことで、外国語教育の資質・能力の育成が図られるよう、学習内容等を設定することが求められる。

### iii) 外国語活動、外国語科における「見方・考え方」

- 他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界とのかかわりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたり

---

それらは、linguistic competence(従来の語彙・文法などの知識と技能)、sociolinguistic competence(社会的文脈などを考慮してことばを使える力)、pragmatic competence(場面・状況・相手などを考慮してことばを使える力)と定義されている。④CEFR で目指している姿は「自律的社会的成員 (autonomous social agent)」であり、自ら学習を管理できる「生きる力」を体現する社会的成員としての個人であり、この点からも学習指導要領の目標と CEFR は非常に近い目標が掲げられていると考えられている。

して表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視し、整理することが重要である。

- 外国語教育において育成を目指す資質・能力を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と整理する。

## ②具体的な改善事項

### i) 教育課程の示し方の改善

#### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため、育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けられるように改善・充実を図る必要がある。
- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。

### イ 指導内容の示し方の改善

- 外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校を通じた、指標形式の目標（前述の五つの領域）、指導内容等について体系的に構造を整理する。この構造の中で、外国語教育において「主体的・対話的で深い学び」を推進する学習過程を繰り返し経るような改善・充実が図られる必要がある。

### ii) 教育内容の改善・充実

#### ア 小学校の外国語教育における改善・充実

- これまでの成果と課題を踏まえて、中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応するため、新たに①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特

徴への気付き、③語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である<sup>161</sup>（別添13 - 4）。

- このような方向性を目指し、小学校高学年において、「聞くこと」、「話すこと」の活動に加え、「読むこと」、「書くこと」を含めた言語活動を展開し、定着を図り、教科として系統的な指導を行うためには、年間70単位時間程度の時数が必要である。また、中学年における外国語活動については、従来の外国語活動と同様に年間35単位時間程度の時数が必要である<sup>162</sup>。

## イ 中学校の外国語教育における改善・充実

- 小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容については、中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である。
- また、中学校では、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させるとともに、高校との接続の観点から、外国語で授業を行うことを基本とするなど指導の改善を図る。
- 併せて、中学校では新たに「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を測定する全国学力・学習状況調査の実施<sup>163</sup>により、具体的な指導改善につながるPDCAサイクルを確立することが重要である。

## ウ 高等学校における科目構成の見直し

- これまでの課題、高校生の多様化に対応するため、高等学校卒業段階で求められる「外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる力」（必履修科目でCEFRのA2相当、選択科目で同B1相当を想定）を育成するため「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的に扱う科目として「英語コミュニケーション（仮称）」を設定する。
- 中学校で学んだことを実際のコミュニケーションにおいて運用する力を十分に身に付けていないといった課題のある生徒も含めた高校生の多様性を踏まえ、外国語で授業を

---

<sup>161</sup> 外国語教育の改善・充実については、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」においても、文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」（平成26年9月26日）においてまとめられた提言を踏まえつつ検討することとされている。提言においては、「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」等の先行した取組の検証を踏まえた外国語教育の課題や方向性について詳細がまとめられている。

<sup>162</sup> これらの効果的な教育課程の編成の在り方については、第2部 1.（2）の「④ 各学校における弾力的な時間割編成」を参照。

<sup>163</sup> 文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」のもとに設置された「英語調査の検討に関するワーキンググループ」にて審議の上、同専門家会議において、平成28年6月には「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ」がまとめられている。

行うことを基本とすることが可能な科目を見直す必要がある。このため、必履修科目（特に学習の初期段階）において、中学校の学び直しの要素を入れることとする。

- 外国語科の授業において言語活動の比重が低い現状を踏まえ、学習指導要領に沿って設定された指標形式の目標を実現するため、いかに言語活動を改善・充実していくかといった観点から科目の見直しを行う。このため、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の総合型の科目（必履修科目を含む）を核とし、発信能力の育成を更に強化するための科目として「論理・表現（仮称）」（「発表、討論・議論、交渉」などにおいて、聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする統合型の言語活動が中心）を設定する。併せて、留学や進学などの目的に応じて高い英語力を目指す高校生もいるといった多様性を踏まえ、専門教科の科目構成を見直すとともに、学校設定科目などで対応できるようにする。（別添13-5を参照）
- また、高等学校においては、生徒や学校の多様なニーズを踏まえ、スーパーグローバルハイスクール等の成果を参考にしつつ、グローバルな視点で他教科等での学習内容等と関連付けて、外国語を用いて課題解決を図る力などを育成するための言語活動の改善・充実を図る必要がある。

#### （英語以外の外国語教育の改善・充実）

- グローバル化が進展する中、日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは、言語やその背景にある文化の多様性を維持・促進し、他の国や文化の尊重につながるため、英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にするとともに、学習指導要領の改訂に向けて、外国語教育における指標形式の目標設定を踏まえたカリキュラム研究、研修、教材開発などの取組について支援することが必要である。

### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

#### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。
- 外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要である。そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である。
- ① 「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会・世界と関わり、生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要

である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

- ②「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。
- ③「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

## イ 教材や教育環境の充実

### (教材の在り方)

- 小学校においては、次期学習指導要領の趣旨を踏まえた中学年向けの外国語活動の教材や高学年向けの教科書を作成する際に参考となるよう、平成28年度中に、平成26・27年度に開発した小学校中学年・高学年向けの補助教材の検証を行う必要がある。また、その検証結果を生かして、中学年の外国語活動の導入や高学年での教科化に対応した教材を平成29年度にかけて開発し、平成30年度には先行実施を行う小学校で活用できるよう作成・配布する必要がある。
- 中・高等学校においては、教科書・教材の課題として、説明・発表・討論等を通じて「思考力・判断力・表現力等」を育成するような言語活動の展開が十分に意識されていないと思われるものも見られる。そのため、どのような力を身に付けるべきであるかということを念頭におきつつ、学習指導要領における指標形式の目標設定などを踏まえた教材とする必要がある。また、言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領の内容の実現のために言語活動の改善・充実に資する生徒が発信したいと思える題材とする視点が必要である。

### (指導体制、教員養成・研修等)

- 外国語教育に関する教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備、小学校の中・高学年それぞれの課題に応じた指導体制の整備が不可欠である。
- 小学校においては、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体の取組方針を明確にした上で、全教員の共通理解を図りながら、中核教員を中心とした校内の英語教育に係る指導体制の強化に取り組むことが重要である。また、①効果的な教材開発とともに、②必要な指導者の確保を含め、地域の実情に応じた柔軟かつ効果的な指導を行う体制づくりが不可欠である。
- 小・中・高等学校の一貫した外国語教育のP D C Aサイクル<sup>164</sup>を通じて、「英語教育推進リーダー」や英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高等学校の連携による研修や、教育委員会と大学・外部専門機関との連携による研修などを実施するとともに、各学校を訪問し、指導計画の作成や学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。
- 小・中・高等学校のコア・カリキュラム開発・普及による教職課程の改善・充実、高学年の教科化に向けて小学校の現職教員が外国語の指導に関する専門性を高めることができるよう、小・中学校の学びの円滑な接続を図るために必要な内容を加えた認定講習等の開設支援及び外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築する。
- 児童生徒が生きた外国語に触れる機会を一層充実するため、特別免許状の活用も含め、教員や外国語指導助手等としての外部人材の受け入れを一層推進する。併せて、外国語が堪能な地域人材や外国語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる。

---

<sup>164</sup> 平成 28 年度より、都道府県ごとに「英語教育改善プラン」の策定・公表を行い、生徒・教員の英語力等の目標設定・管理の下、必要な研修等を実施し、P D C Aサイクルの構築を推進している。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>○外国語の特徴やきまりに関する理解 ・音声、語彙・表現、文法の知識</p> <p>○言語の働き、役割に関する理解 (例) ・コミュニケーションを円滑にする (繰り返す, 言い換える 等) ・気持ちを伝える (感謝する, 謝る 等) ・情報を伝える (説明する, 理由を述べる 等) ・考えや意図を伝える (賛成・反対する, 主張する 等) ・相手の行動を促す (依頼する, 許可する 等)</p> <p>※各言語活動に応じた言語の働き</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能 など</p>	<p>◆外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力</p> <p>◆考えの形成、整理</p> <p>○目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力</p> <p>○知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力</p> <p>○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力 など</p>	<p>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</p> <p>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度</p> <p>○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度 など</p>

# 外国語活動・外国語科における教育のイメージ

## 【高等学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。
- ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
  - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【中学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
  - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【小学校高学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
  - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【小学校中学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、聞いたり話したりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を用いた体験的な活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- ③外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
  - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校 262 中学校 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。</li> <li>○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。</li> <li>○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。</li> <li>○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。</li> <li>○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。</li> <li>○Eメール、エッセイ、レポートなどそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。</li> </ul>
	B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。</li> </ul>
	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な事柄や出来事について、簡単な単語や文を用いて即興で話すことができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。</li> <li>○身近な事柄について、簡単な単語や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○聞いたり読んだりした内容について、簡単な単語や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。</li> </ul>
	A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある英語の中の単語や単純な文を理解できるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な単語や文を用いて、自分について話すことができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な単語や文を用いて短く話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に関するごく限られた情報を、簡単な単語や文を用いて書くことができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄について、簡単な単語や文を用いて書くことができるようにする。</li> </ul>
(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。</li> <li>○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な単語や文を聞き取ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。</li> <li>○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。</li> <li>○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な単語や文を用いて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字で書くことができるようにする。</li> <li>○例文を参考にしながら、音声などで十分に慣れ親しんだ単語や文を書き写すことができるようにする。</li> </ul>	

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

小学校3年生外国語活動週1コマ  
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)たたき台

単元名	時間	<題材> 使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Hello!	3	<言語・挨拶> Hello. Goodbye. My name is ~. Thank you.	・世界には様々な言語があることに気付くとともに、英語での挨拶の表現に慣れ親しみ、自分の名前を言って挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 I'm happy.	2(5)	<ジェスチャー・感情・様子> 感情・様子を表す語 How are you? I'm happy.	・世界には様々なジェスチャーがあることに気付くとともに、感情や状態を表す語や表現に慣れ親しみ、表情やジェスチャーをつけて挨拶とともに、相手に感情や状態を伝えようとする。	1-L2
Lesson 3 How many apples?	4(9)	<数・身の回りの物> 身の回りの物 one ~ ten How many ~?	・言語には、それぞれ特色があることを知るとともに、数の言い方や尋ね方に慣れ親しみ、身の回りのものを数えようとする。	1-L3
Lesson 4 My rainbow	5(14)	<色> 色 I like ~. Do you like ~? Yes, I do. No, I don't.	・英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付くとともに、好きなものを表わしたり、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L4 1-L5
Lesson 5 絵本教材活用単元 :In the Autumn Forest	4(18)	<動物> 動物・体の部位・ 形状を表す語	・カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気付き、まとまりのある英語での話を聞いてその大筋がわかり、動物や体の部位、形状を表す語に慣れ親しみ、まとまりのある英語での物語を聞いてその概要を理解し、自分が選んだ動物を紹介しようとする。	2-L7
Lesson 6 This is my favorite.	4(22)	<外来語・食べ物> 野菜・果物・菓子 What do you like? I like ~.	・食べ物や色などの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に何が好きなかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 7 My name	5(27)	<アルファベット大文字> A ~ Z What do you want? ~, please.	・身の回りにはアルファベットで表されているものが多いことに気付くとともに、アルファベットの読み方や、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持って欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 8 Welcome to our museum.	4(31)	<身の回りの物> 身の回りの物・形状を表す 語 What ~ do you want?	・身の回りの物に関する外来語とその英語から、日本語と英語の音の違いに気付き、どのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってどのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 9 Who am I?	4(35)	<動物・身の回りの物> 動物・身の回りの物・形状・ 様子を表す語 I'm ~.	・動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、相手意識を持ってある物について尋ねたり答えたりしようとする。	1-L7

小学校4年生外国語活動週1コマ  
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)たたき台

単元名	時間	題材・使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Nice to meet you.	4(4)	<世界の言語・アルファベット小文字> a ~ z Nice to meet you. My name is ~. What's your name?	・様々な言語があることに気付くとともに、アルファベット小文字や初めて出会った人との挨拶の仕方に慣れ親しみ、相手意識を持って挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 Turn right.	4(8)	<学校・道案内> 教室・学校 Where is ~? Go straight. Turn right/left.	・世界には様々な学校生活があることを知り、学校の中の物や教室名の言い方に慣れ親しみ、相手意識を持って学校を案内しようとする。	2-L5
Lesson 3	4(12)	<昆虫・自然> 自然や位置に関する語句	・自然や位置に関する語句に慣れ親しみ、ジェスチャーや絵等、非言語手段を用いて、聞き手にわかりやすく話したり、わからない語句があっても類推しながら聞き続けたりしようとする。	2-L5
Lesson 4 What's this?	5(17)	<文字・アルファベット大小文字> Aa ~ Zz What's this? It's ~.	・世界には様々な文字があることや、身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付くとともに、身の回りの物や、あるものが何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってあるものが何かを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L7
Lesson 5 絵本教材活用単元 : Good morning!	5(22)	<一日の生活> 動作・気持ちを表す語 I have/study/play ~.	・言葉には深い意味があることに気付き、様々な動作や気持ちを表す表現に慣れ親しみ、まとまりのある話の概要を理解しようとする。	2-L7
Lesson 6 Ten years!	4(26)	<職業> 職業・身の回りの物・感情を表す語 What do you want to be? I want to be ~.	・世界には様々な職業があることに気付き、職業を表す語に慣れ親しみ、就きたい職業について聞いたり言ったりしようとする。	2-L8
Lesson 7 What's this? Quiz	4(30)	<クイズ身の回りの物> 動物 形状を表す語 色・形状 What's this?	・英語と日本語の音声の違い気に気付き、身の回りのものの言い方に慣れ親しみ、二往復以上のやりとりをしようとする。	1-L7
Lesson 8 Welcome to my town.	5(35)	<自分の住む地域> 建物・有名な物を表す語 状態・感情を表す語	・形、色、形状等の語いやそれらに関する表現に慣れ親しみ、あるものについて説明しようしようとする。	1-L7

次期学習指導要領の5・6年生の年間指導計画 イメージ たたき台

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

小学校5年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材等	目標例(二重下線部は、HFに設定されていない部分)	HFとの関連・プラスした時数
Lesson 1 Hello, everyone.	5(5)	挨拶・自己紹介 I like/don't like ~. 反応	・自分のことについて簡単に紹介できるようにするとともに、自分のことについて相手を尊重しながら伝え合おうとする。	1-L1 ③
Lesson 2 Do you have "a"?	8(13)	身の回りの英語表記 アルファベット大小文字 Do you have ~?	・身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことや、アルファベットには読み方と音があることに気付き、アルファベットの文字を読んだり、あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりすることができるようにするとともに、アルファベットの文字を読んだり書き写したり、あるものを持っているか尋ねたり答えたりしようとする。	2-L1 ④
Lesson 3 When is your favorite day?	8(21)	月日・季節 When is ~? Why?	・世界には様々な行事があることに気付き、日程を尋ねたり答えたりすることができるようにするとともに、自分の大切な日について理由を含めて伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。	2-L2 ④
Lesson 4 This is ME!	8(29)	スポーツ・楽器 身の回りのもの・動作 I can ~. Can you ~?	・人それぞれであることに気付き、物語のあらすじを聞き取ったり、できることを尋ねたり答えたりすることができるようにするとともに、自分のできることやできないことを伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写そうとしたりする。	2-L3 ④
Lesson 5 Turn right.	7(36)	建物 道案内 Where is ~?	・世界の町の様子から日本との相違点に気付き、道を尋ねたり、道案内したりできるようにするとともに、相手にわかるように道案内したり、正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。	2-L4 ④
Lesson 6 This is our town!	8(44)	自然 食べ物 特産物等 This is ~.	・自分たちの町の様子から、世界との共通点に気付き、自分たちの住む町について伝え合えることができるようにするとともに、自分たちの住む町のお薦めを紹介しようとしたり、正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。	新規 ⑧
Lesson 7 My school schedule	8(52)	教科名 曜日 身の回りのもの I study ~ on Monday.	・世界の同年代の子供の学校生活から自分たちとの相違点や共通点、単語はアルファベットの文字がまとまってできていることに気付き、学校生活について説明し合ったり、正確にアルファベットの文字を書いたりできるようにするとともに、お気に入りの時間を入れた時間割を伝え合おうとする。	1-L8 ③
Lesson 8 Healthy menu	8(60)	食べ物 食習慣 What would you like?	・世界には様々な食生活があることに気付き、丁寧に欲しい物を尋ね、答えたり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにするとともに、健康に良い食事について伝え合おうとする。	1-L9 ④
Lesson 9 We are good friends.	10(70)	世界の童話 日本の童話 Let's ~.	・世界には子供たちに様々な願いを込めて書かれた童話等があることや、アルファベットの文字がまとまって単語になることに気付き、まとまった英語の物語を聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言ったり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにするとともに、英語で物語の内容を伝え合おうとする。	2-L7 ④

**【短時間学習の例・イメージ】**  
**例えば、Lesson 3**  
**自分の大切な日について**  
 ○季節・月日などの語彙や日程を尋ねたり答えたりする表現を使うことができる。

主な目標と活動例

・「チャンツ」を通して、季節・月日などの単語に慣れる。  
 ・「ステレオゲーム」を通して、月日などの単語や日程の尋ね方を使えるようにする。  
 ・補助教材ワークシートなどを活用してアルファベットの文字を丁寧に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考えられる。

265

小学校6年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材	目標例	HFとの関連・プラスした時数
Lesson 1 Hello, nice to meet you.	5(5)	挨拶 自己紹介 I'm ~.	・世界には様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、 <b>簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりすることができるようにするとともに、自分について相手にわかるように伝え合おうとする。</b>	1-L1 ③
Lesson 2 This is our school.	8(13)	教室名 身の回りの物 形状・気持ちを表す語 I like ~.	・世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、 <b>自分の学校について簡単に説明したり、学校名を正確に書いたりすることができるようにするとともに、自分たちの学校について自分の考えを伝え合おうとする。</b>	2-L4 ④
Lesson 3 Let's go to Italy.	8(21)	世界の国々 生活 I want to go to ~.	・世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付き、 <b>行ってみたい国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりできるようにするとともに、お薦めの国について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</b>	2-L5 ④
Lesson 4 Welcome to our country.	8(29)	日本の特徴 ~ is ~.	・日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付き、 <b>日本について伝えることができるようにするとともに、日本の良さについて自分の考えを相手にわかるように伝え合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする。</b>	新規 ⑧
Lesson 5 What time do you get up?	8(37)	266 一日の生活 時刻 I get up at 7:00.	・世界の人々は様々な生活の中で精一杯生活を営んでいることや、時差があること、 <b>英語と日本との表記の仕方の違いに気付き、自分の一日の生活について伝え合うことができるようにするとともに、自分の大切にしている時間について伝え合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする。</b>	2-L6 ③
Lesson 6 A letter to ....	8(45)	動物 ~ is chasing ~.	・世界の様々な課題や、 <b>英語の語順に気付き、まとまった内容の話を聞いて理解し自分のできることを伝え合い、単語を正確に描き写したりできるようにするとともに、世界の様々な課題に対して自分ができるところを伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</b>	2-L3・L7 ⑧
Lesson 7 My favorite event	8(53)	学校生活 My favorite event is ~.	・世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付き、 <b>6年間の小学校生活について自分の考えを伝え合ったり、単語を正確に書き写したりできるようにするとともに、思い出に残る行事についてその理由を含めて伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</b>	新規 ⑧
Lesson 8 What do you want to be?	8(61)	職業 気持ちを表す語 I want to be a teacher.	・世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付き、 <b>つきたい職業について伝え合ったり、単語を正確に書き写したりできるようにするとともに、自分の将来について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</b>	2-L7 ④
Lesson 9 Junior High School Life	9(70)	中学校生活 I want to enjoy ~.	・ <b>中学校生活についてのまとまった話を理解し、自分の考えを表現したり、単語を正確に書き写したりできるようにするとともに、中学校生活の期待について簡単なスピーチをしたり、単語を推測して読んだりしようとする。</b>	新規 ⑧

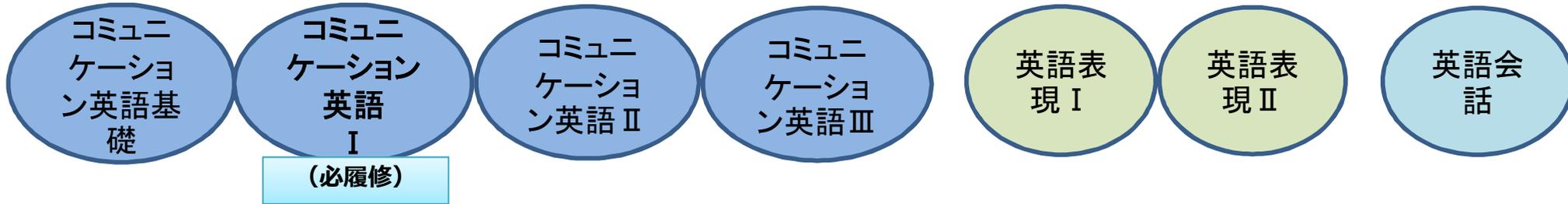
【短時間学習の例・イメージ】

例えば、Lesson 6  
学校行事について

主な目標と活動例

- 思い出の学校行事について自分の考えを表現するとともに、思い出の学校行事名を正確に書き写すことができる。
- ・「学校行事かるた取りゲーム」を通して、学校行事を表す単語に慣れる。
- ・「チャンツ」を通して、行事の言い方を使えるようにする。
- ・「学校行事名の文字をなぞる」活動を通して文字を正確に書き写すようにする。
- この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考えられる。

外国語  
現行科目



課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

育成を目指す  
資質・能力等

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合型  
(必修科目を含む)の科目を核とする

発信能力の育成をさらに強化する

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成(受信・発信のバランス)
- ・明確な目標(英語を用いて何ができるようになるか)を達成するための構成・内容
- ・複数の力を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着(高等学校への橋渡し)を含む。

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)

- ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し  
⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称), ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ(仮称), エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ(仮称)

改訂の方向性(案)

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

Ⅰ↓Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化

# 外国語教育の抜本的強化のイメージ

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

CEFR

B2

B1

A2

268

A1

## 新たな外国語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成

高校卒業レベルで  
4000語～5000語程度

高校で  
1800～  
2500語  
程度

中学校  
で1600  
～1800  
語程度

小学校  
で600～  
700語  
程度

### 現状

高校卒業レベル  
で3000語

高で  
1800語

中で  
1200語

#### 【高等学校】

- 目標:コミュニケーション能力を養う
- 授業は外国語で行うことが基本

国の目標（英検準2～2級程度等50%）  
→現状32%

- ・生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
- ・言語活動が十分でない

#### 【中学校】

- 教科型**を通じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的育成
- 目標:コミュニケーション能力の基礎を養う
  - 前回改訂で週3⇒週4に増

・国の目標(英検3級程度等50%)→現状35%

- ・言語活動が十分でない

年間140単位時間（週4コマ程度）

#### 【小学校高学年】

- 活動型**
- 目標:「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
  - 学級担任を中心に指導

外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

年間35単位時間（週1コマ程度）

#### 【高等学校】

- 目標例:**例えば、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。
- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、幅広い話題について情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う。
  - 授業を外国語で行うことを基本とするとともに、
    - ①「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に扱う言語活動
    - ②特に、課題がある「話すこと」「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実（発表、討論・議論、交渉等）。

年間140単位時間

#### 【中学校】

- 目標例:**例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。
- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を外国語で行うことを基本とする。
  - 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

#### 教科型

【小学校高学年】

#### 【小学校】

年間70単位時間

- 目標例:**例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする。
- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。
  - 学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用。

教科として系統的に学ぶため、短時間学習や、45分に15分を加えた60分授業の設定等の柔軟な時間割編成を可能とする

#### 活動型

【小学校中学年】

年間35単位時間

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心としたコミュニケーション能力の素地を養う。
- 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導。

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

高等学校基礎学力テスト（仮称）

全国学力・学習状況調査

# 外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ)

参考資料

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

## 資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力  
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

高等学校

○日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力  
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

## 指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)  
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。

小学校(高学年)

(例)  
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

中学校

(例)  
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

高等学校

(例)  
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

【見方・考え方】  
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

・主体的な学び  
・対話的な学び  
・深い学びへ

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

情意・態度の育成

## 目的に応じたコミュニケーションのプロセス

### 【学習過程】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し
- ③ 目的実現のための言語活動(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)
- ④ まとめと振り返り

※詳細は次ページ参照

次の活動へ

「見方・考え方」の成長・発展

他者への働きかけ、他者との協働  
外部との相互作用

※必ずしも一方通行の流れではない

外国語活動・外国語科の学習過程のイメージ

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

資質・能力の例について

○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活等について、友達に質問したり、質問に答えたりするコミュニケーション力

○具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力

○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

○日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力

○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

目的の設定・理解

目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し

目的実現のための言語活動  
（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型）

言語・内容の両面におけるまとめと振り返り

小学校  
(中学年)

①【目的の設定・理解例】  
簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。

③【目標実現のための活動例】  
使用表現について理解したり、練習したりする活動・お互いの考えや気持ちを伝え合う活動  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内  
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び  
【コミュニケーションの働きの例】  
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験しての感想など）

小学校  
(高学年)

①【目的の設定・理解例】  
馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。

③【目標実現のための活動例】  
言語材料について理解したり練習したりする活動  
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内  
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び  
【コミュニケーションの働きの例】  
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（活用した言語表現等についての気づきなども含む）  
・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報やそれについての考えやコミュニケーションを体験しての感想など）

中学校

①【目的の設定・理解例】  
具体的に身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、簡単な情報交換をしたりできる。

③【目標実現のための活動例】  
言語材料について理解したり練習したりする活動  
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動  
※具体的な場面に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする  
※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面や文脈で活用  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話  
・生徒の身近な暮らしに関わる場面家庭生活、学校での学習・活動、地域行事  
【言語の働きの例】  
・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（話して伝えたことをより正確に書くなど）  
・内容面でのまとめと振り返り（受信したことや発信したことの整理など）

高等学校

①【目的の設定・理解例】  
日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

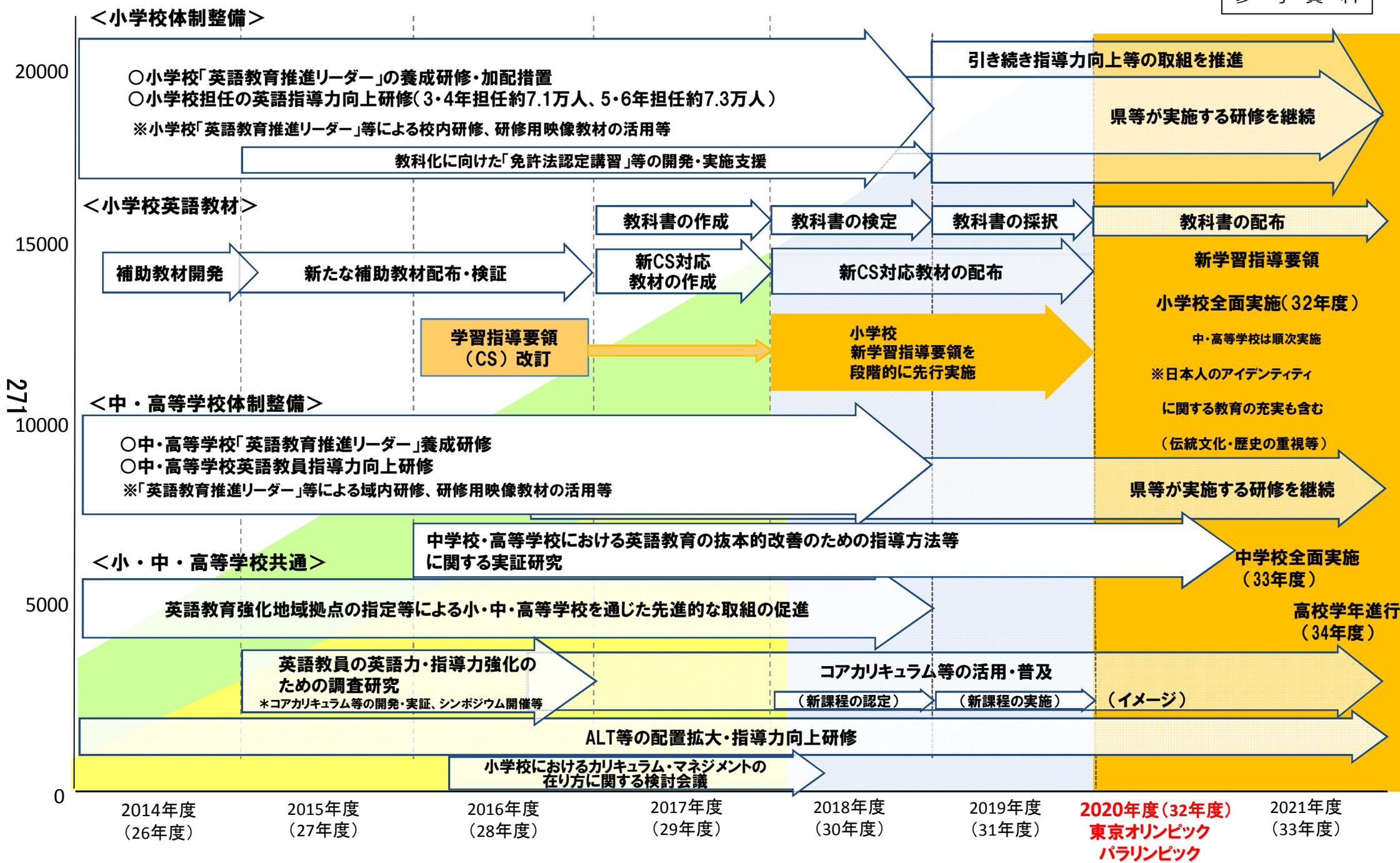
③【目標実現のための活動例】  
幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動  
・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動  
・幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う活動  
【コミュニケーション能力の設定】  
・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の基礎的な能力（必修科目）  
⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力（必修科目＋選択科目）  
・英語話者が理解できる程度の英語（必修科目）  
⇒ 英語話者が理解できる程度の英語＋ある程度の流暢さ（必修科目＋選択科目）  
【話題の設定】  
身近な話題及び日常的话题や関心のある分野（必修科目）  
⇒ 時事的な話題や社会問題など（必修科目＋選択科目）  
【情報や考えなどの発表・やりとりに関する言語活動の設定】  
・（発表）スピーチ、プレゼンテーション等  
・（やり取り）ディベート、ディスカッション等  
※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スパイラルに学習する  
※具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする  
※ペア・ワークやグループ・ワークを学習形態の基本とする

④・言語面でのまとめと振り返り  
【例】流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視したライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり  
・内容面でのまとめと振り返り  
【例】得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化

# グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

参考資料

(小学校数)



国が定める標準授業時数に上乗せして実施する小学校

研究開発学校・教育課程特例校 (現行の教育課程の基準によらない)

新学習指導要領(小学校英語)の先行実施